

2008 年 11 月 5 日

日本アフリカ学会会員各位

日本アフリカ学会会長
市川光雄

2009 年度日本アフリカ学会学術大会について

拝啓

秋も深まってまいりましたが、皆様ご清栄のことと存じ上げます。

さて、2009 年度日本アフリカ学会学術大会は、東京農業大学を会場として開催することを予定いたしております。この文書が同封されている第 1 回サーキュラーには、発表に関して選考を行う可能性がある旨、記載されております。この点につきまして、ご理解とご協力を賜りたく、ご説明申し上げます。

最近 10 ヶ年の学術大会を振り返ってみますと、2002 年度大会（東北大学）で口頭発表数が初めて 100 本を超え、2005 年度大会（東京外国語大学）では 134 本の発表希望に対応するため口頭発表用の会場を 4 会場とせざるを得なくなりました。さらに、発表形式の多様化と相俟って、2008 年度大会（龍谷大学）では 5 会場でプログラムを同時進行する事態に至りました。

学会員数の増加等に伴って発表数が増大することは喜ばしいことではありますが、同時に、開催校の負担が増大し、また地域学会ならではのプログラム編成が困難となりつつあります。このような懸案事項に関して、前役員体制では「将来構想検討 C 委員会」を設立し、また本役員体制では「学術大会検討小委員会」を立ち上げて、検討してまいりました。学術大会の運営方法の変更につきましては総会での決議を必要といたしますので、2010 年度以降の学術大会の運営方法に関して 2009 年度の総会でお諮りし、皆様の御意見を伺いたいと存じます。

端境期ともいうべき 2009 年度大会につきましては、「開催校の事情を勘案し、発表を調整することもありうる」ことを、2008 年度の総会においてご承認いただいております。「学術大会検討小委員会」の提案を稟議による理事会で検討し、また開催校である東京農業大学の学術大会実行委員会のご意向を斟酌した結果、会場数を抑えながらも、これまであまり活用されてこなかったポスター発表を増大し、口頭発表と併せて 120 本程度の発表数を確保するという方針を採用することにいたしました。

発表希望が発表可能（予定）数を超える場合には、理事会で任命した委員会において、選考せざるをえないと判断いたしております。以上の事情をご勘案いただき、2009 年度学術大会の運営方法につきまして、ご理解とご協力のほど、再度お願い申し上げます。

敬具